

スキージャンプ勝山 ランディングアプローチセオリー

場周飛行ランディングの実践



世界中の航空機は
統一されたひとつのランディングアプローチで
滑走路へ進入しています。

最新のパラグライダーは、昔に比べ非常に性能もあがり、十分にスピードをつけて飛行する必要性があります。

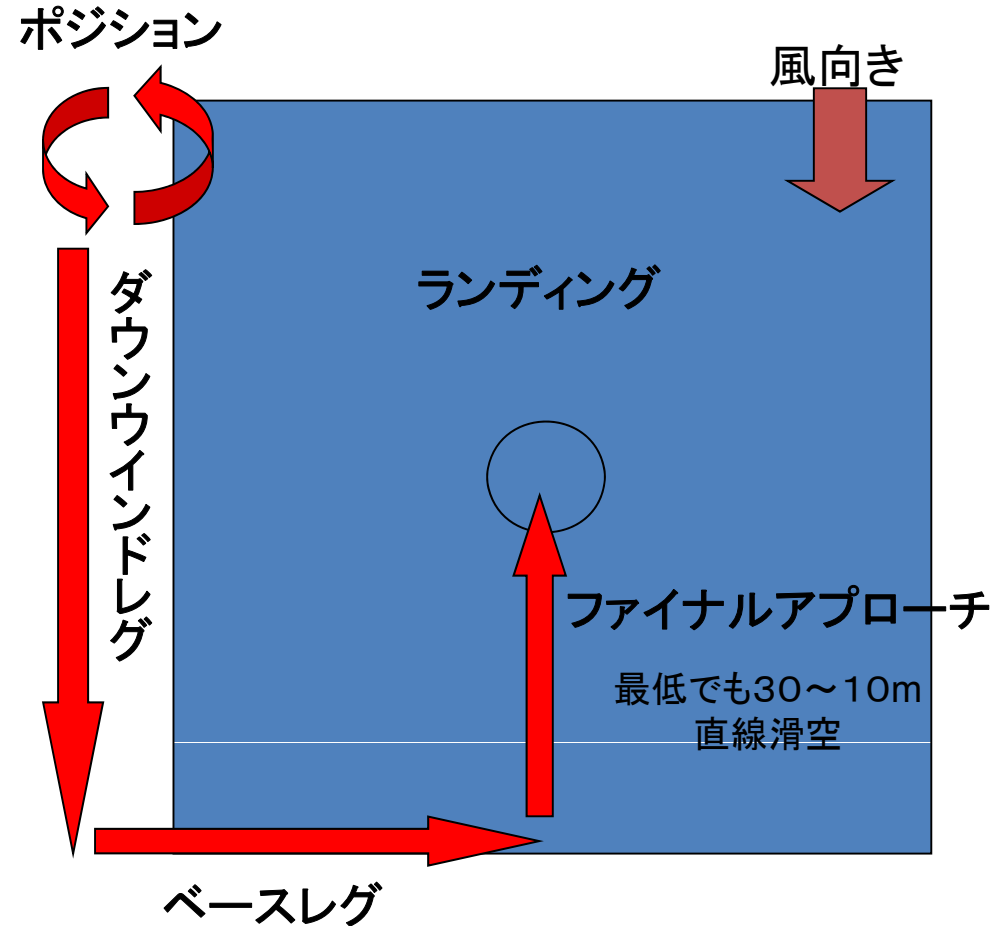
当然そのためには、ランディングにおいても航空理論に基づいたアプローチの必要性が生じてきます。

場周飛行セオリー

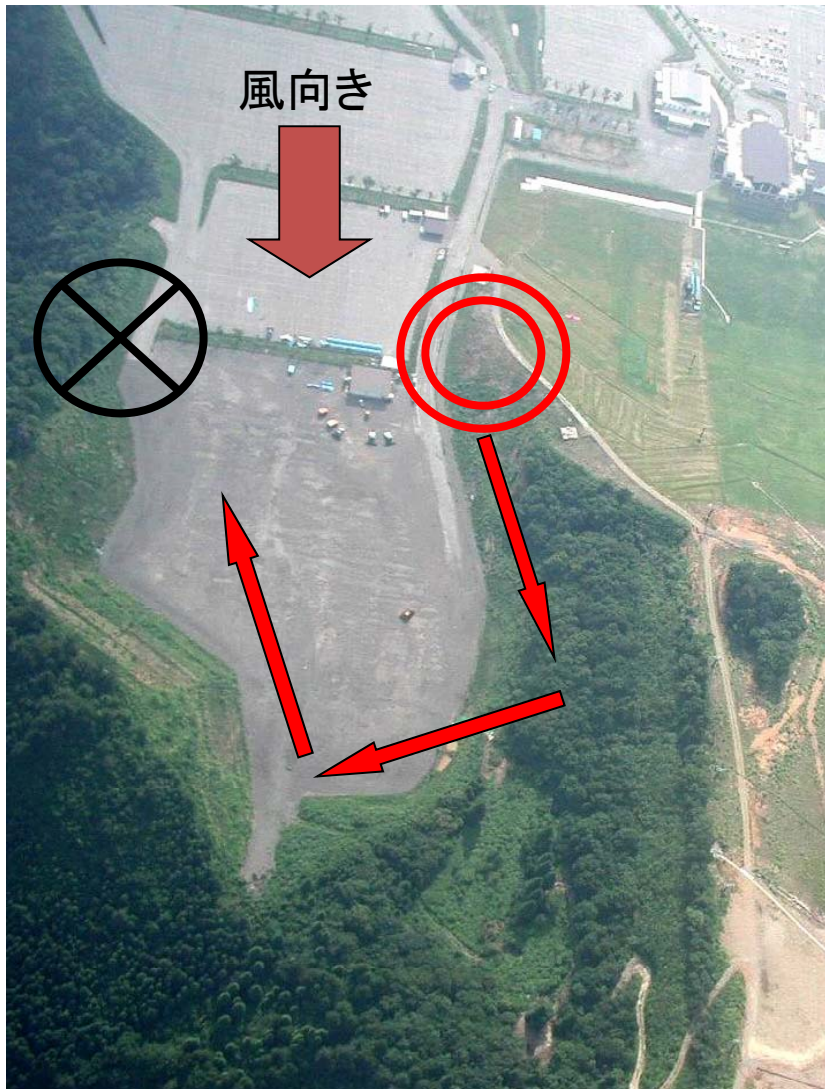
ランディングにアプローチする際には、ランディングポイント風上の左前方(ポジション)で左360度旋回にてアプローチ高度まで高度を落とすこと

ダウンウインドレグ→
ベースレグ→
ファイナルアプローチを経てランディングすること

ファイナルアプローチは最低でも30~10mの距離を直線滑空すること



エリアの地形による例外

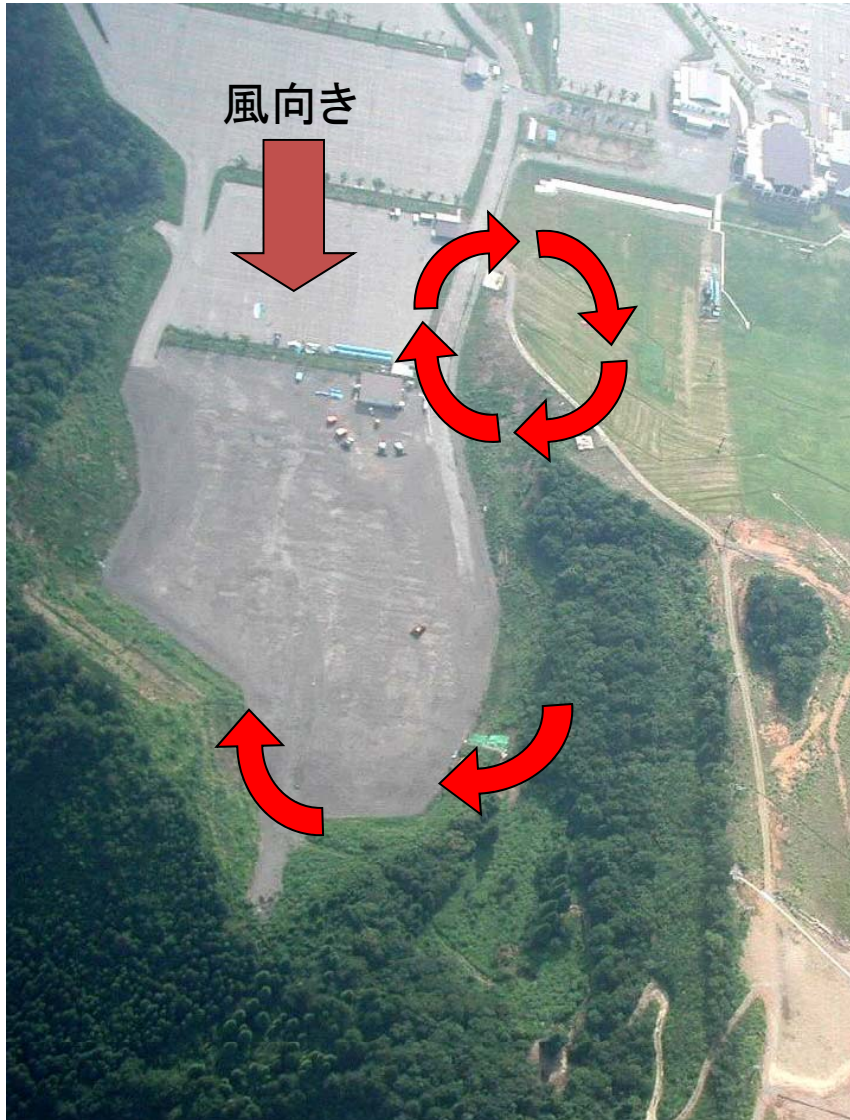


スキージャンプの場合
ランディング左前方で
ポジションを
取ることが難しいため

特例として、**右前方**にて
高度処理を行う

要領は左場周と同じです。

当然のことながら！



右前方ポジションでの
360度高度処理の方向は
ベース、ファイナルの時の
ターン方向と同様に

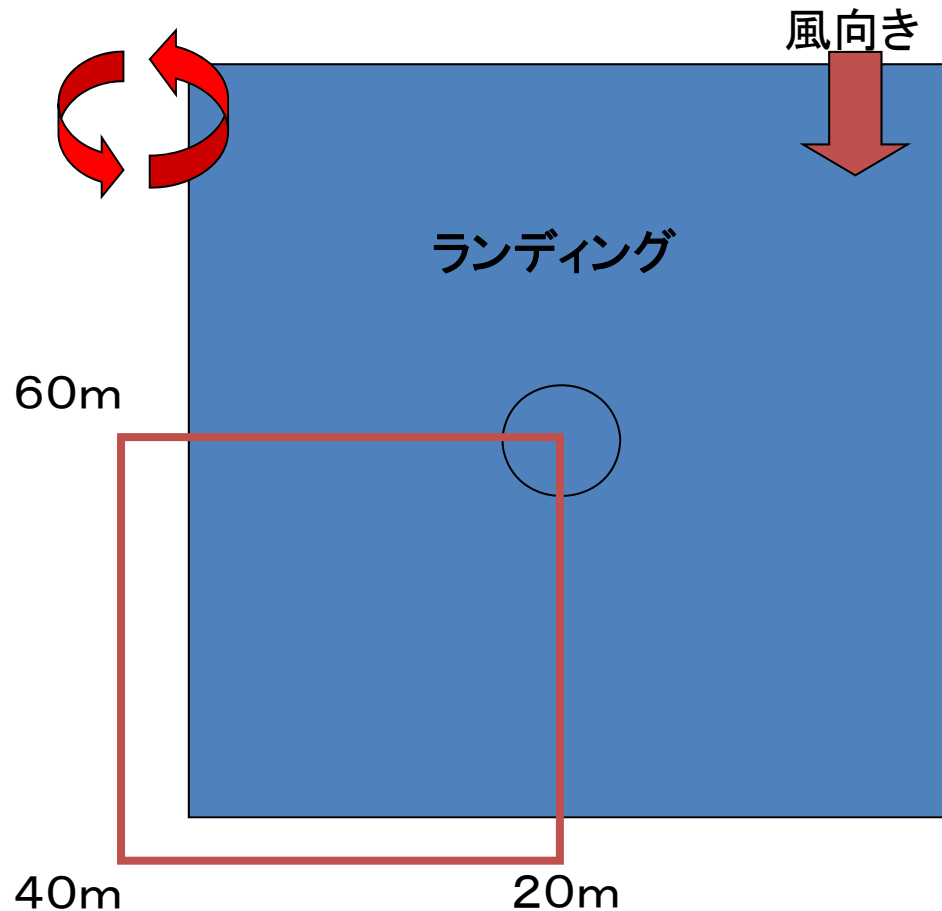
右旋回

高度処理理論

無風を基本とした場合

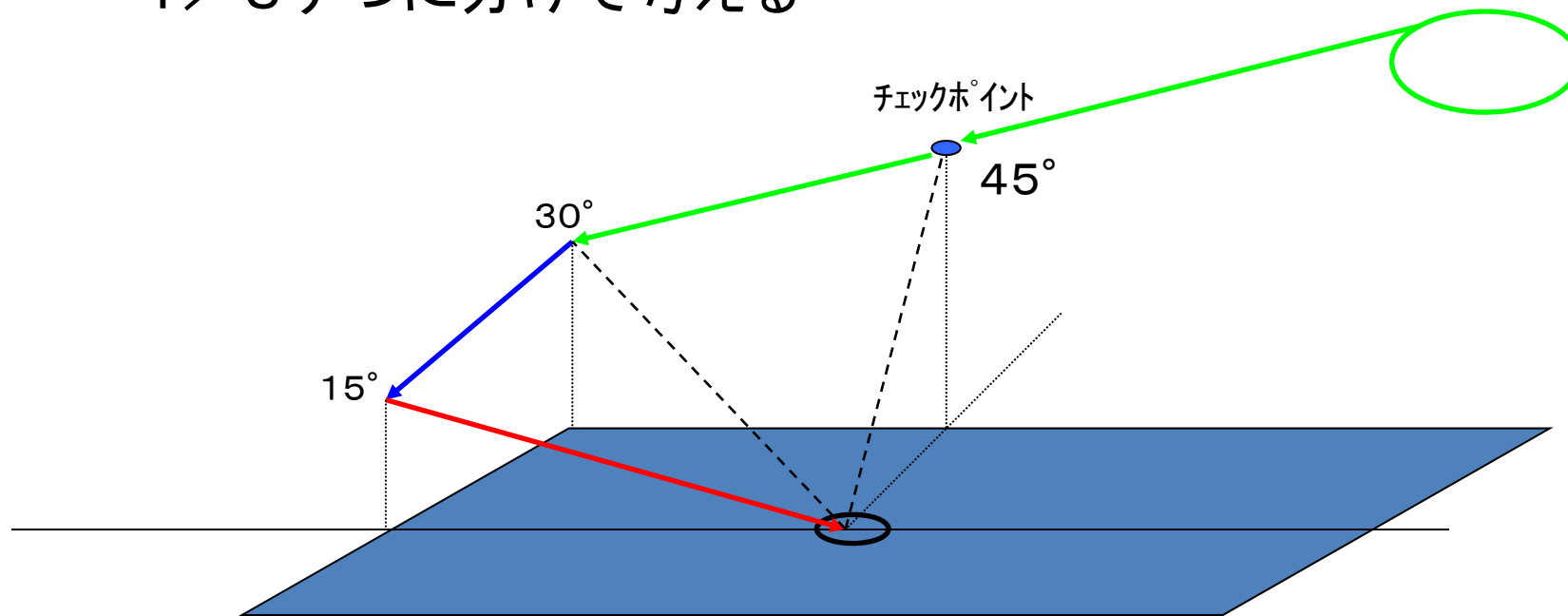
チェックポイントで3/3。
ベースターンでは2/3。
ファイナルターンで残り
1/3と考える。

たとえばチェックポイントで
高度60mならば
高度40mになった時点で
ベースターン。
ベースから高度20mになった時点で
ファイナルターンを切り
ファイナルアプローチに入る。



高度処理理論2

- ポイントはチェックポイントで約45度の角度でターゲットが見えていること。
- 1/3ずつに分けて考える

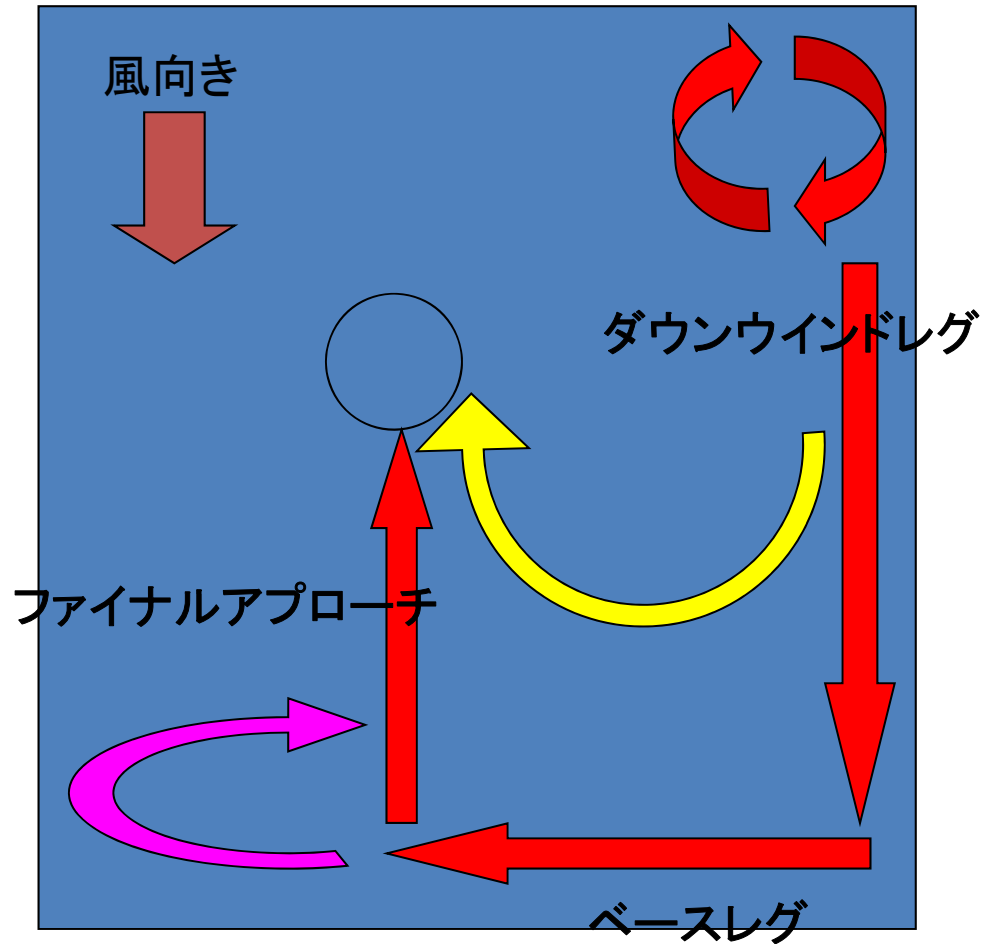


しかし！

風によっては、そううまくいかないのが、
ランディングのムズカイシイところ

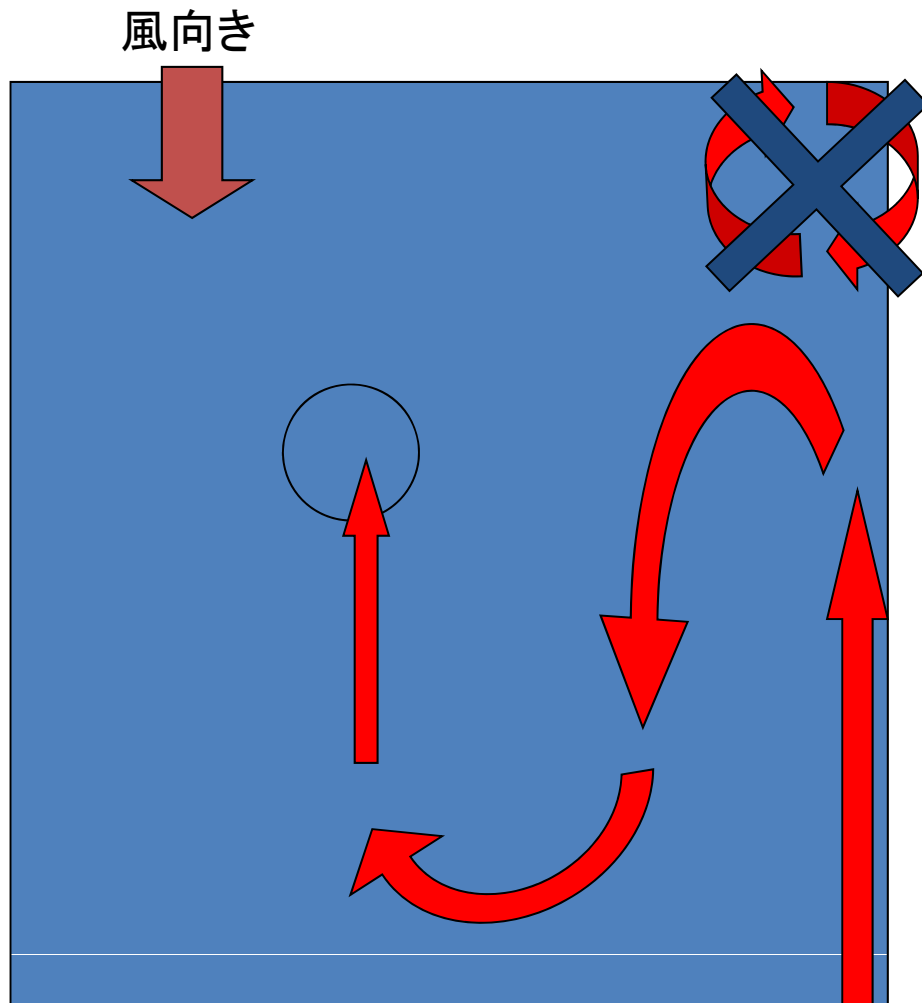
理論どおりにならない場合は
どうすればいい？

間違った高さの修正



- 高すぎる場合
ベースを伸ばして
ファイナルへ進入
- 低すぎる場合
すべてのレグを
短くするしかない

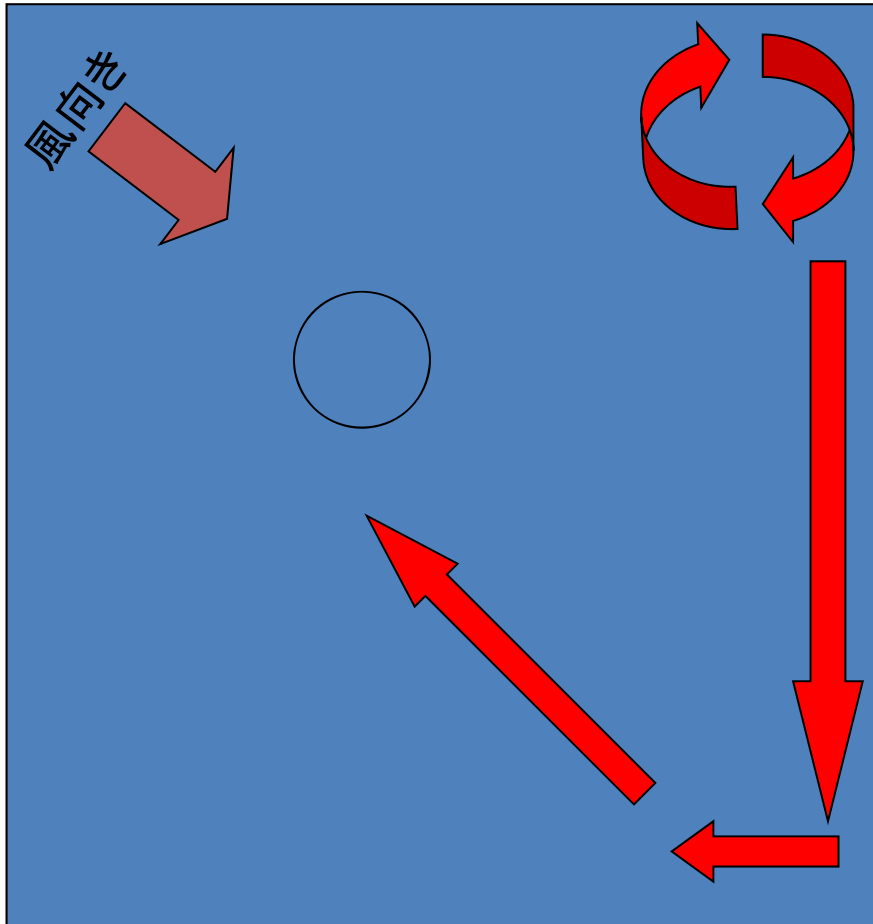
もしも、ポジションに行くまでもなく 低い場合



届かない！！

この場合にかぎり、
ランディング方向への
左180度旋回にて進入
その後短くても
ベースレグおよび、
ファイナルアプローチ
を取るように

風向きがサイドになった場合(左)



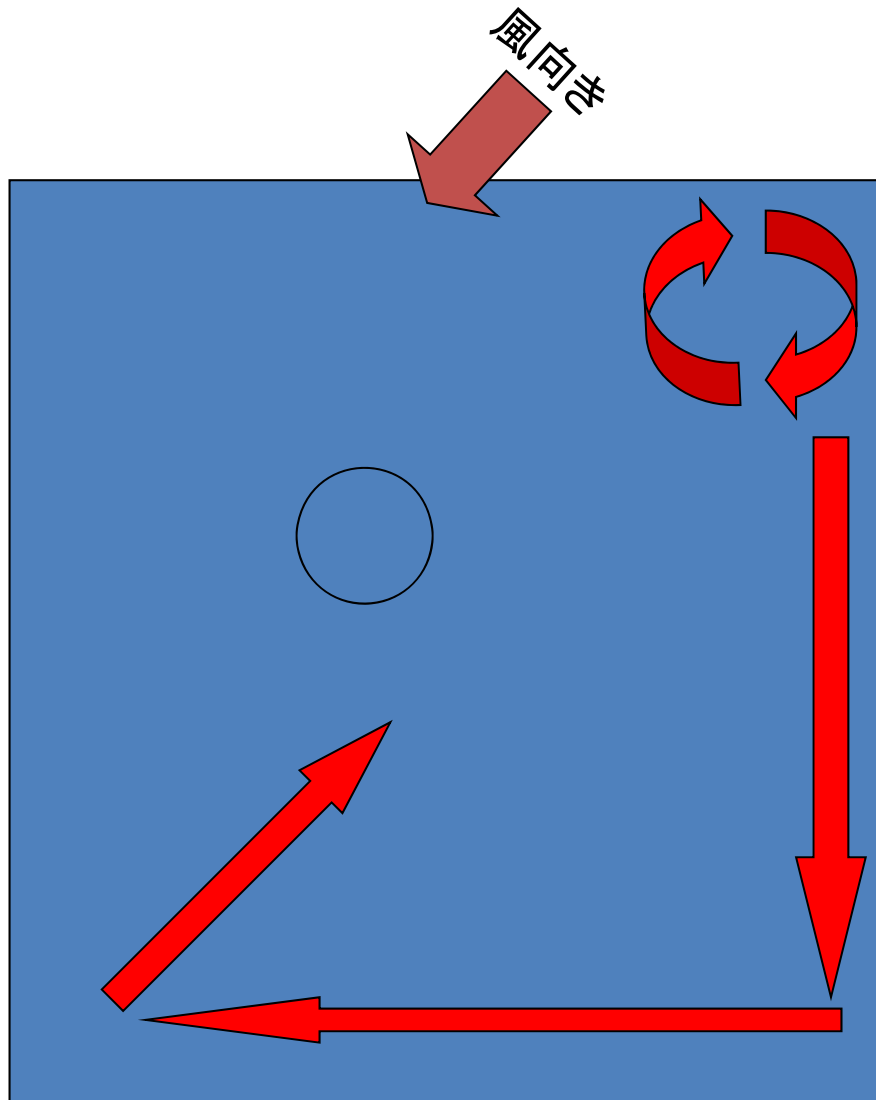
- ・ **左サイド**からの風の場合

ベースレグを短くして、

ファイナルアプローチ
を
左方向に

* その分ポジションで
低めに進入する必要がある

右サイド



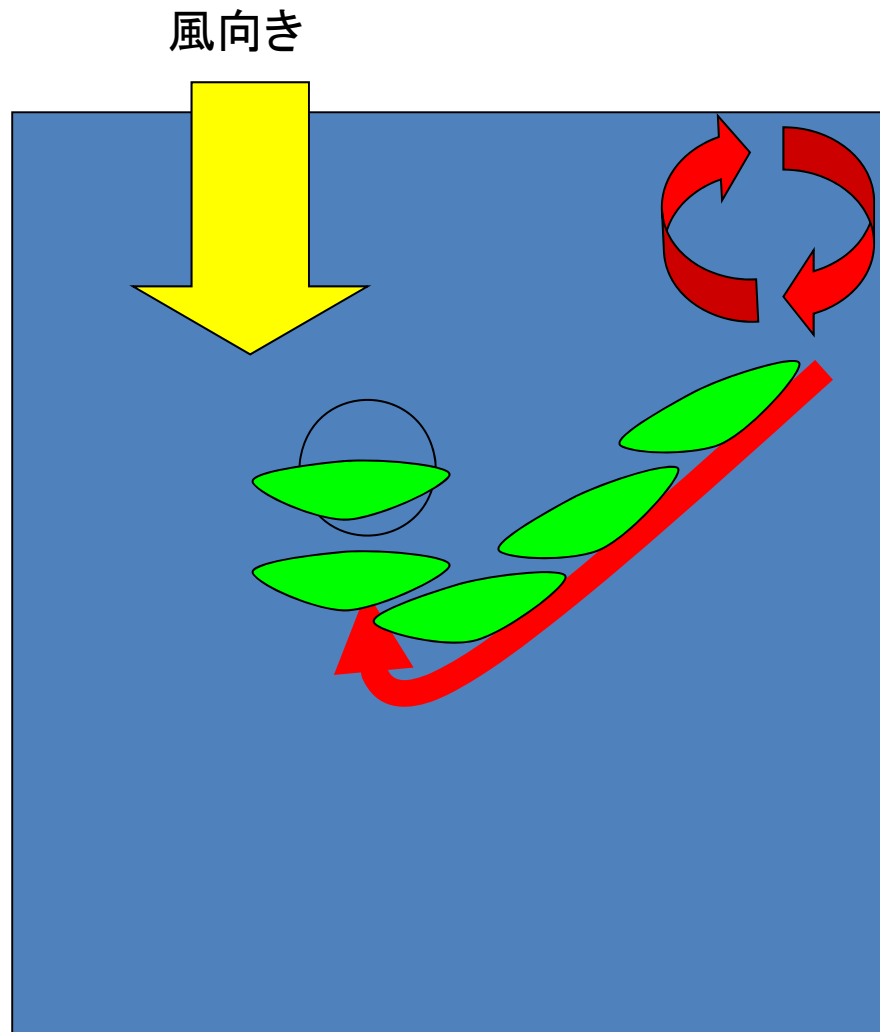
- **右サイド**からの風の場合

ベースレグを長くして、

ファイナルアプローチ
を
右方向に

その分ポジションでは
高めに離脱する
必要がある

強風！

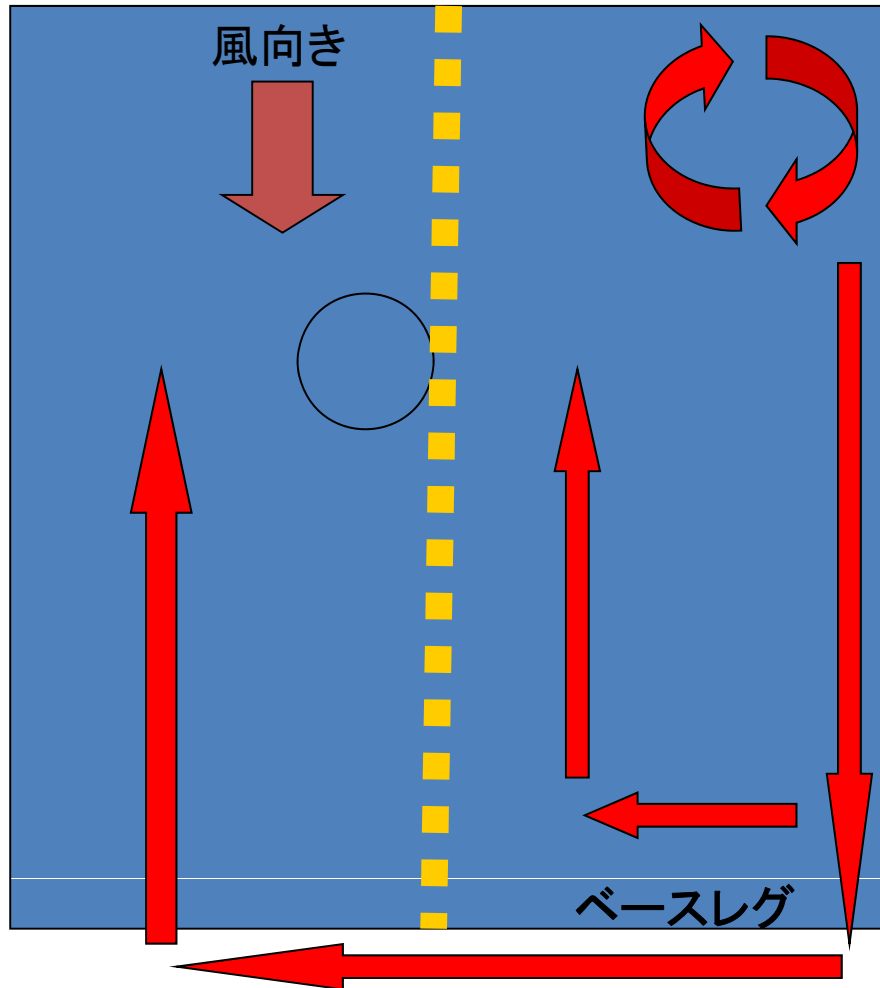


強風の場合、
ダウンウインドへは向かわず
偏流をかけながら

サイドウインドアプローチ

！一気に風下に流されると危険！！
必ず風に正対させながら
高度を調整することが大切！！

アプローチに他のフライヤーがいたら



ランディングスペースを
左右に半分ずつとして
ベースレグを調整する

ここで、今一度スキージャム勝山エリアのランディングアプローチ構成を理解してください。



最後に

- ランディングアプローチからランディングまでが最も怪我をしやすいエリアです。
- 細心の注意を払い、完璧なソフトランディングが出来るようにトレーニングしましょう。
- 常に、吹流しを観察し、
- 常にターゲットとの高さを意識しましょう。

さあ、よいフライトを！